



第17図 オートグラフA7および記録装置

ウィルド製万能図化機で 右側にあるのは この機械に直結する電磁式記録装置であり 測定データテープにパンチされる このパンチされたデータはアジア航測株式会社に開発された電子計算機にかけられる (アジア航測株式会社の好意による)

図化・計測作業については すでに刊行されている多くの写真測量の書籍 教科書に譲ることにして ここでは 地上立体写真測量に用いられる図化機を紹介するだけにとどめておく。

近距離地上立体写真測量用としては それぞれ専用の図化機がある。 すなわち ツアイスのテラグラフ (第15図) ウィルドのオートグラフA40 (第16図) などである。 これらは未経験者でも2~3週の講習により一応修得できる。 精密図化機としては ステレオプラニグラフC8 同じくC5 オートグラフA7 (第17図) などがあ り これらは使用範囲のきわめて広い万能1級図化機である。

おわりに

以上 きわめて簡単に地上立体写真測量についての概要を紹介したが 地すべり 崖くずれ 河川の側刻などの測定 露頭の記録など地質学の分野でも 今後応用範囲が多分にあるものと考えられる。 本項を執筆するに当って 図・写真などの資料を提供し 掲載を快諾された東京大学生産技術研究所大島太市氏 アジア航空測量株式会社 シーベルヘグナー エンド コンパニーリミテッドに対して厚くお礼申上げる。

(筆者は測量課・応用地質部)



地学と切手

阿蘇国立公園

堀内恵彦

大カルデラ内の活火山として世界的に有名な 阿蘇と九重火山群およびその北に連なり 別府市背後に位置する由布・鶴見岳までの 熊本・大分両県にまたがる730.87kmの地域が本公園区域です。 阿蘇山は 周囲80kmに及ぶ外輪山に囲まれた陥没火口原の中に 噴煙が天に沖する豪壮な中岳を主峰とする阿蘇五岳が山容をそそえ 火口原中の阿蘇谷・南郷谷はなごやかな田園風景を展開しています。

外輪山の外側は広大な裾野となり その西北部の菊地水源と深森林野は すぐれた水景として豪快な阿蘇の景観中に特異な



部分を占めています。

九重火山群は久住山を中心とする一大高原地帯で 西南の原野は阿蘇外輪山に連なる雄大な景観です。

由布・鶴見の両岳は典型的

なトロイデ火山で 別府湾の背景をなしています。 ここから九重地区飯田高原に連なるひも状の地区は 道路公園の性格の部分で変化ある景観を楽しむことができます。 この公園は各所に各種の温泉が湧出し 九州観光の中心的存在となっており九州を訪ずれる観光客は必ずといってよいほど足をはこぶ地域です。 公園指定は昭和9年12月4日。

切手は第一次が2銭(久住山) 4銭(中岳) 10銭(中岳の火口) 20銭(中央火口丘群)の4種で 昭和14年8月15日 第二次は5円(阿蘇五岳の噴火口) 10円(城山からの阿蘇五岳)の2種が 今年6月15日に発行されました。